

これは、相手の人の守護霊が観える人（心の事が分かる人）に、「本人に言っても通じないんです。すみませんが、あなたから何とか言って貰えないでしょうか」

と言っている訳なんです。ね。

一九九八年五月

### 第三話 「日本人」関連の参考講話 短編集

#### 一、日本人の起源と神話

（ページ「日本民族の起源」参照）

まず、私達の日本の歴史、日本流に言うくと、約二千六百年、それが歴史なんです。

これは以前、電車に乗っていた時に出て来たんですけれど、私がまだ若い頃（第二次世界大戦中）に覚えたものなんです。

「昔、神武天皇が同伴・物部の兵どもを率い、中国の服わぬ者ども（服従しないひと

達）を、討ち平らげ給え、高御座に即かせられ天下領ろし召し給ひし（国を治める）より、二千五百有余年を経た……」

と、習ったんです。その後がズーツと続くのですが、これは、兵隊さんの時の、軍人勅諭（明治天皇が、軍人に下した、礼儀・武勇・忠節・信義・質素を説いた教え）なんです。

若い時の「覚え」というものは凄（すさまじ）いもんですね。今、「これを覚えろ」と言われても、覚えられないです。

これは、何処の国でも、何処の民族の中でも、神話というものがあります。

日本でも古事記とか、いろんなものがあります。

日本の神話であっても、最初にスサノオの尊が国を造ったとは言っていませんよ。

大国主命の国造りの神話では、縄を何処かに掛けて引ひ張ったとか言ってますけど、そうではなくて、大国主命という人は、実は日本人じゃないんですよ。日本海側から舟で流れ着いて、そこで一つの国を造った人なんです。

ところがその頃、大和朝廷があつて、やられそうになったから、大国主命が先に旨

い事を言って、手を握にぎってしまっただんです。そうしたら大和朝廷では、「そうか、それじゃ一緒いっしょにやろう。あなたは大変な功労者こうらうしやだ。あなたの住すむ処ところを造つくってあげよう」

と造ったのが、出雲大社いずもたいしやなんです。神様がいるのではなく、実際に人が住んでいた処ところなんです。それを後の人が祀まつって、神話にしてしまっただんです。

ギリシヤ神話のゼウスの話にしてもそうですね。四千年近くも前のものです。その頃に神様はそんな事をしていません。

一万年前にも、人間はちゃんと生活せいふしている訳わけですから、おかしな話はなしですね。

ギリシヤ神話にしても日本神話にしても内容は同じおなです。人間である以上いじじょう、みんな一緒いっしょなんです。

そして、其それ々の秩序ちつじよを保たもつ為ために、そういうものがあつたのですね。

旧約聖書きうやくせいしよには、アダムとイブの話はなしがあります。アダムとイブは、人間が誕生たんじゆうした時からの話で、あの二人から始はじまったのではないんですよ。イブとは、全すべての母ははという意味いみです。

日本の神話にも、イザナギの尊みこととイザナミの尊みことが出て来て、二人で柱はしらをグルグル回まわったら、赤あかん坊ぼうが出来たという話はなしがあります。これは、国くにを治おさめていくには、一つにまとめる必要ひつようがあつたから神話を造つくつた訳わけです。民族を統一とういつする為ために造つくり出した。

そうしたら、この話とアダムとイブの話は、そっくりですね。

それから、日本の神話の中には、ヤマタノオロチがありますね。よくスサノオの尊みことのお芝居しばいをやっていますよね。あれは一体何いっぴいなんの事ことでしょうか？——実はあれは、嵐あらしが来て川かはらが氾濫はんらんしたのをヤマタノオロチ（八岐大蛇やまたのおろち）にした。そして、田圃たんぼをイナダ姫ひめ（奇稲田姫くしなだひめ）にした。

「川かはらが氾濫はんらんしたら、こういう事ことになつてしまふから、穀物こくもつを大事だいじにしましょう」と、護岸ごがん工こう事じをして、統一とういつをしていった訳わけです。

そういうふうには、神話を造つくつていったんです。

日本人にっぽんじんというのは、先まず中国大陸ちゆうごくたいりくからの人、朝鮮半島ちやうせんはんとうからの人、そして南方民族なんぽうみんぞく、それから元々もともとそこにいた土着どちやくの民族みんぞくもいますね。

日本にっぽんは豊臣秀吉とよひでよしの頃ころから、朝鮮に征伐せいはつに行いつたり、明治時代めいじだいになつてからは、中国

とも戦争せんそうしたりしましたが、実は、私達もその国の血を引いたものなんです。こうしてみると、日本人というのは、一体何だろうと思つたら、混血こんけつなんです。いろんな国の人の寄り集まりあつまりなんですね。

それで、神武天皇じんむてんのうの頃、その辺から大和朝廷やまとていが始まり、中大兄皇子なかのおおえのおうじが出て来て、どうだこうだになるんですが、この中大兄皇子という人——実は、この人も日本人ではないんじゃないかと思ひますよ。

そして、先程さきほどの軍人勅諭ちよくゆの中にあつた、「討ち平らげ給え」なんて、平らげられたのは誰かと言うと、元々そこに住んでいた人達なんですよね。(笑)やられたのが、蝦夷えぞとか熊襲くまその人ばかりでしょう。あの人達が、元々からいた本当の日本人ですね。考えてみたら、歴史というのは、いいころ加減かげんですよ。

それから、日本人の中には、北の方にアイヌ民族がいますよね。東北とうほくの方にもアイヌの人がいた訳です。

ところが、そのアイヌ民族と沖繩おきなわの人が変わらないんですね。そっくりなんです。沖繩の方が、私の話を聴ききに來られるので、その人に訊きいてみたんです、

「こんな事を言つたら、失礼しつれいですけどね、あなた達、自分達がアイヌの人達に似にてい  
ると思つた事はないですか？」

「はい、あります」

と、そう仰おしやつたんです。やはり、そういうふうと思つていたんですね。その人は、  
「実は、私は旭川あさひかわへ行って、アイヌの人に会つてきました」  
と言うんです。えらい熱心ねっしんな方かたです。

「どうでしたか？」

「私達と同じでした」  
と仰おしやつたんですね。

何かその辺になると、何処どこかで分かれて、何処どこかで一緒になつて、グル／＼やっ  
ている訳です。私は同じ民族じゃないかと思ひます。ただ北と南になつただけです  
ね。

そうすると、純粹じゆんすいの日本人というのはいないですね、これは——。

私は、いろんな処から呼よばれて、あちこち話をしに行くのですが、地方ちほうをズーッと

歩いていて、東北の人は骨格で分かるんです。九州の人も顔を見たら分かるんです。それだけ民族が違う訳です。

「骨格が違うって、どういうことかな？」と思ってもさっぱり分からない。その辺になると分からないんですけど、当然、韓国の人も全然違うでしょう。同じ眼の色をしていても違う訳です。中国の人も違いますね。この頃は、往き来が激しくなったから、どれがどれだ分からなくなったけれども、よく見たら分かります。

今度は九州の人はというと……南方系の顔をした人が多いですよ。（笑）

それは何故かと言いますと、皆さんも存知のように、高橋信次先生のビデオの話の中にある、卑弥呼の話とか、その時代の過去世を持った人達の話とか、そういう話がありますね。

卑弥呼という人は、元々は南方民族なんです。インドシナの方から舟でズーツと上がって来た訳です。そして、九州の博多の方に上陸して、有明海を望む処に拠点を置いたのですね。そこが先ず、卑弥呼の始まりなんです。

それで、神武天皇の時代からズーツと続いて、今の天皇陛下になった訳ですが、そ

の前には天照大神がいた。

「天照大神とは、実は、卑弥呼のことだ……」と言っても、何だか分かったような分からないような、それこそ “講釈師、見てきたような嘘を吐き” になってしま

いますけども……。 （笑）  
これは文献とか、そういうものは沢山あるんですけど、私はそういうものを見る処も知りませんから、心の中でズーツと追求し、掘り下げていったのです。——そうしたら、自分の心の中から出て来たものなんです。

卑弥呼という人は、取り巻きの人が沢山いて、いろんなことが分かった人です。当然分かった人です。魂の段階から言ったら、上段階の偉い人なんです。

ですから、それによって朝鮮とか中国とか付き合いをしていた訳です。

卑弥呼という人は、いろんな霊的な事が分かった人なんです。それでみんなが、卑弥呼に国政・政治の事を訊いた訳です。そして大方の事をやっていった訳ですね。

ところが、この卑弥呼という人は、そういう事をしていたが為に、あまりに自分が自由にならずに、外にも出られずに終わられてしまったんですよ。

しかし、この卑弥呼という人も意識の世界（心・魂の世界）から言ったら、本当に偉い処の人なんですけども、一旦肉体を持ってしまふと、そういうものに流されて分らなくなつてしまふんですね。そして、あの世に帰られてしまった。

それから二千六百年、その昔から、人間というものは、「何か物でない処（次元の違う世界）が何かあるんじゃないだろうか」、「そういう処に私達を導いてくれるものがあるんじゃないだろうか」と、誰でもみんな、そういう思いを持ってきたんじゃないでしょうか。——持ってますよね。

それは何故でしょうか？ ——本当は、私達は肉体以外の処（心の世界）の住人ですから、そういうものが、みんな心にあるからなんですよ。

そのように、私達の歴史というものは、いろんなものを造り出して来た訳です。